慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	都市計画と米国商業会議所（上）
Sub Title	
Author	根本, 清六
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.8 (1919. 8) ,p.1060(108)- 1072(120)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190801-0108

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

易き貨物を輸送するに就て、汽船の線路を特約し、牛酪、鮮肉、菓實を輸送するに、一定の標準に據らしむ。

國家の信用が地方團體の水道敷設を助くるの點は特に注目す可きものあり。例へば或る小都會に於て、水道の敷設を希望する場合には中央政府は熟練なる技術家を任命して、一切の計畫を立案し、其經費、收入、負債償還能力を調査せしめ、一方に是等の計畫が完成したる場合には、政府は公債を發行して、之を成就するに要する費用を供す可く、人口二千五百乃至五千の小都會にして容易に水道の便宜を享くるを得るなり。

吾人の目的とする所は生產と分配との間に同一の步調を保たしめんとするものに外ならず。戰爭は實に如何なる形態の社會主義にも必要なる準備を供し、生產分配の諸方便を共同的に所有し、管理することの實行し得らるゝ事實を證明したり。固より戰爭に依て、國家の得たる權能は人民を奴隸化するの目的に供せらるの恐あるや、論を俟たず。隨て集產主義を解放の方便に充つるものと、國家に大なる强制的權能を與ふるの具とするとの間に、爭鬪の盛なるは、之を免かるゝ能はざる可し。

都市計畫と米國商業會議所（上）

根本清六

一

米國に於ける商業會議所の近狀は、その政府をして『商業會議所本來の職責としては、その地域內に存する產業の調査、指導、啓發を主とすることは勿論であるが、その實行は却て社會問題の解決、都市政策の計畫等に重きを置くの觀がある』と曰はしめたるが如く、亦、かの大英百科全書をして『クリーブランド市の如きは、都市の自治行政としては、最も發達し、且つ成功せるものであるが、その故、一は市民が公共觀念の發達せるにも依るけれ共、他の最も大なる理由としては同市商業會議所の力に依れることを忘れることが出來ぬ』と評せしめたるが如く、米國に於ける商業會議所が單に受動的消極的の事業のみにては滿足せず、常に商工業の利益增進と、市民の福祉擁護とに向つて活動してるのは顯著なる事實である、就中、クリーブランド商業會議所に至ては、本來の職責に努力すると共に、常に何等かの新しき試みを企てゝ、都市問題解決の衝に當り、北米各都市の當事者から注目されつゝあるのみである、今、本稿は Kenneth Sturges 氏の、American Chambers of Commerce なる書中、その第七章より第十一章に至る間の抄錄で、原文の順序に準據して、初め、稿をクリーブランド商業會議所の都市事業に起し、次て各地商業會議所の活動に及ふ考であるが、素より斷墨零簡的の抄錄に止まるが故に、世の商業會議所研究に志を抱く人々、都市問題に意を注く人々の參考になるかどうかは頗る疑はしい、尤も、商業會議所そのものゝ研究に就ては、稿を改めて見ゆるの機會があると思ふ。

二

クリーブランド商業會議所は、近世式商業會議所の模範として、廣くその名を傳へられてゐる、從て一般商工業者の活動機關としても又市民の公營機關としても、絕えず興味ある研究の題材となつてゐる。曾ては米國の最も有力なる三十餘個所の、商業會議所書記長等が、辭を揃へて、クリーブランド會議所を以て、最も都市

改善に貢献したるものと推賛し、又、クリーブランド市民そのものも、その會議所を敬重し、これを懐慕するの餘、遂にこれを名付て、市民の會堂となすに至つたのを見ても、如何に同會議所が、その本來の目的に向つては勿論、時としてはその將を超えても、意義ある活動をなしたるかの、一班を推知せらる。

特に、最近二十年間に於ける、クリーブランド市人口の急激なる增加は、同會議所の主として努力せる所と稱せられてゐる、クリーブランド會議所書記長ライヤーソン、リチーなる人は北米の都市に關しては犀利なる觀察者を以て許されてゐるが、氏が北米に於ける新進著名の都市五所、乃ち、クリーブランド、シンシナチ、バッファロ、ピッツバーク、及びデトロアットに就て、市政最近二十年間の比較研究をなしたる所に依れば、初め、この五市は共に新興の都市として、その勢力も亦伯仲の間に在つたのであるが、千八百九十年の市勢調査の際には、既に幾何かの盛衰を示し、人口としては、シンシナチ最も多く、クリーブランド、ピッツバーク、バッファロこれに亞ぎ、デトロアットは最低位に落ちてゐた、更に、千九百年にはクリーブランドが首座を占め、バッファロ第二位、シンシナチ第三位に下つた、次て千九百十年にはクリーブランドは依然としてその首位を動かす、而も第二位たるピッツバークと大差なく、デトロアットは第三位を占めた、これより先き首位を誇つたシンシナチは、その市民を自覺ある個體として、統一することに成功せざりし結果、遂に二十年後に於ては最低位に貶せられたのである、凡そ、クリーブランド、デトロアット、及びピッツバークの如く商業都市としての活動を競ふ所には、必ず其處には健全なる都市精神を有する代表的商業機關があつて、これをして遺憾なくその手腕を揮はしめてゐる、ピッツバーク、バッファロの兩商業會議所の設立は、猶、近年のことに屬してゐるが、夙に良好の成績を示してゐる。

舊制度のクリーブランド商業會議所は、千八百四十八年に設けられ、その定款中、會議所の目的としては、『誠實と安固を保持し、職業の神聖と平等の原則に據り、惡習を摘發してこれを糺明し、以て商習慣の改善と統一とを期し、常に信憑す可き統計又は報告を公にし、商事上の紛議を防止し、或はこれを解決し、當市に於ける商工業の利益を保護增進せむとするに在り』と掲げられてある如く、その事業も商工業上の事項に限定せられて、社會的又は行政上の事業には及むでゐなかつたのである、然るに千八百九十三年に至りて、その組織を革新し、州法に準據して、事務の範圍を擴大し、商工の分野を超越して、敢て都市それ自身の事業に心を須ふるやうになつたのである。

クリーブランド商業會議所が、如何にして偉大なる成功を收めたりやと云ふに、その理由は下の三個のやうである、一は同市在住商工業家の不屈不撓の努力、二は同會議所初代書記長ライヤソン、リチー氏の非凡の手腕、三は同市々民の公共的精神の旺盛なること、これである。

三

公共的精神の振作に就ては、クリーブランド會議所は、夙に舊制度時代よりして、力を極めてこれを奬勵したのであるが、新制度に遷りてよりは、リチー氏主としてその事に任し、初めて會議所を中心として市民を統合し、以て公共的活動を案したのである、乃ち、市民は先つオハヨ州會議所聯合會を組織し、米國領事官制の改革運動に着手し、ロッチバルトン案として

議會に提出した、又、千九百二年には貧民窟問題を提げて、輿論を喚起し、委員を選みて細民の住居狀況を探査し、一方オハヨ州政廳に警告し、更に同市の家屋建築取締規則をも制定せしめた、この取締規則は範を全國に示したもので、專ら衞生上の設備、危險の豫防に意を注き、多數の密集會同する家屋の建築條件を嚴にし、規則に牴觸する建物は、これを改築するまで、その使用を禁し、若し條件に適合せざる建物を放任する時は、市は與へられたる權力を以て、これを破壞することゝした。

而して、前述の委員は或一部落約五千人の貧民が、僅に十個の浴槽を有するに過きざるを發見し、當局に訴へて特別支出を求め、彼等の爲めに三個の宏大なる浴場を作つた、又、別に彼等に適當なる運動場の必要なることをも認め、市當局と力を協せてこれをも設置した、千九百四年には政黨の反對あるにも屈せず、市の教育事業の不備を整理するの案を立て、その一部は市の容るゝ所とならなかつたけれ共、大體の目的は貫徹することを得た、其他、河川港灣の調査、食用肉類の調査、交通及道路の整理、工業區域の水道には特別高壓裝置の取付、或は市、區、町の名稱の選定等も、悉く會議所の與つて爲せし處である、かく、會議所の事務は、逐年擴大して、今や同市の實業方面の利益は勿論、市政上に於ても、大小を擧げて會議所に依りて代表せらるゝに至り、又、會議所は市民の利益を代表する廣汎なる團體となれる結果、その從屬機關としては、所内に特殊調査部を設け、例へは、小賣商人部、卸商人部、製造業者部、地主部、電氣業者部等の細目に區分した、（但、この特殊部會は他の會議所にても、同樣の設備ある所多し、例へば倫敦會議所にては、これを四十餘種の業部に別ち、本邦にても、概して、商業、工業、交通、財政等の數部に別てるもの多し）而して、これ等の各業部が年々五百回乃至七百回の會合を開くを見ても、苟も公益の存する所、これを追求して已まぬの態度を看取せらるゝのである。

クリーブランド市發展の原因中、最も大なるもの三つ、就中、同商業會議所書記長の手腕の非凡なることも、その一に居ることは、前述せる所であるが、初代書記長リチー氏は新制度會議所の創業者にして、千九百年には推されて會頭の職に就き、後ちボストン市に招かれて、同地會議所の改革に貢献した、二代書記長スコット氏は、會議所理事會の推薦する所に係り、氏も亦市民の期待に背かず、三代書記長乃ち現任のハーブン氏も亦、書記長とし不出世の靈腕を發揮し、會議所の名をしてますます北米全土に重きをなさしめたのである。

四

人口稠密なる都市が、一方に於ては市民の利益を增進し、公共的思想を發達せしむると同時に、猶、他の方面に在りて、社會生存の落伍者を生しつゝあるは、一般共通の現象なるが如く、クリーブランドも亦その例にして、近年人口增加率に比しては、遙かに大なる貧民の增加率を發見した、千九百年四月に於ける同市の慈善的設備は、五十一個所にして、到底滿足なる成績を擧ぐる能はざる狀態に在つた、茲に於てか、會議所は慈善組合の委員會を組織して、これを會議所に附屬せしめ、洽く既存の慈善施設を調査して、慈善の美名の下に利を營むもの、又は不正の手段を以て經營するものを排斥した、その意蓋し市民の義捐をして最も有効ならしめ、眞の慈善施設を保育せむとするのである、委員會は又、かくして選拔したる慈善團には、證明書を交附し、市民に向つては、該證明書なき慈善團には、關係することなからしむるやうにした、

而も、市民の不注意よりして、誤りてこれ等の偽慈善團に寄附するが如きことを發見したる際には、會議所は相當の注意と說明とを與へて、以て、社會的事業の實効を圖つてゐる、處が、この組織は廣く北米全土の注意を惹き起し、千九百十年には紐育、ピッツバーク其他の都市は人をクリーブランドに派して、その救貧事業を研究せしむる程に發達した。

遮莫、慈善事業の如きは、素よりその經營の困難は豫期せらるゝ所であつて、クリーブランドの最も有名なる慈善會でさへも、猶且つ、資金に窮して活動意の如くならなかつた、乃ち、千九百七年の實況にては、同市の慈善團體の數六十一の維持費を寄附する篤志者は、五十餘萬の市民中僅かに六千人の上には出てゝ居らぬ、而も總金額の三分の一は僅々十三人の手より支出せられてゐたのである、この事實は千九百九年の調査に於ても、亦同樣であつた、然して慈善寄附金の受入先によりその額にも大差ありて、自然、右に厚く、左に薄しと云ふ結果を生し、救貧上にも衡平を缺き勝ちなので、會議所は一切の寄附金を一先づ中央に集めて、然る後これを各慈善團に合理的に配布するの計畫を立て、オーベリン專門學校のウヰリアム氏を以て中央慈善會組織委員長に推し、千九百十三年より活動を開始した、素より一切の方針は會議所及び委員會にて審定することゝし、各慈善團はその指導の下に在りて、何等後顧の憂もなく、專らその事業に從ふことを得るに至つた、それから寄附金も急速に增加し、冗費を節約し、事業を整理し、その効果は着々として擧り、クリーブランド市史に於て、一新紀元を劃せりとさへ稱せられてゐる。

千九百九年には、又、クリーブランド會議所は數名の委員を擧げて、石炭拔取問題に關する調査を行はしめた、尤も、この事業は會議所の活動としては、日常の些事に過ぎざるが故に、殆むと問題となすの價値もないやうであるが、同會議所が市民の福利を希ふ熱誠は、この微細の事にも及ぶかを知り得るを以て少しくその內容を示して置き度い、本問題の起るや、委員はその調査方法として、先つ市役所、鐵道局、石炭商、製造工業家の應援を求め、一方、拔取の行はるゝ場所に就ても、細心の注意を怠らなかつた、而して、この事に最も利害關係ある石炭商の中には、新に雇人の數を增加して、委員の行動を補佐せしめたものすらもあつた、その結果としては、年々尠くとも九萬弗に相當する石炭が、運送の途中に於て、拔取らるゝを發見したのである、元來、クリーブランドに搬送せらるゝ石炭は、何れの運送方法に依るを問はず、途中にて必ず減荷するを常とし、これ皆、沿道の貧民が燃料として貯へ來つたのである、例へば、石炭積載の貨車が監視人なくして、停車數刻に及ぶ時の如きは、一車輛に付き七千ポンドを失いたりと云ひ、又、ある製造工業家は千九百七年の八個月間に於て、五百八十三噸の減荷を發見したとも云ふから、これを事實とせば會議所の調査せる數字よりは、その量遙かに大なるものと推論せらるゝのである、兎も角も、委員會の報告する所に依れば、石炭の拔取りをするものは、必ずしも常習犯の徒にはあらずして、却て外國人たる婦女又は小兒であつたのである、報告書に從へばかうなのである『拔取の一例は瀛車の停車中、小兒をして貨車より數塊を投下せしめ、年長の女がこれを拾い集めるとか、又は、瀛車の自家附近を通過の際、車內より投下せしめるとかである、且つこれ等の行爲は必ず

しも極貧の故にはあらず、多くは主人の不在中に婦女小兒の單純なる慾望から出つるのである』と猶報告書には『これ等の輩の行爲は敢て刑を科するほどのものにあらず、唯、かれ等の本國たる歐洲に於ては、社會の制裁と、竊盜防止とに就て適當の手段を講じ、又、かれ等の道義觀念も緊張してゐるが、一旦米國に移住してからは、隣保の親しみ漸く薄く、公德思想が弛緩して、事茲に至つたのである、年額九萬弗の損失は、當市の富と比しては何程のことでもないが、善良の民をして、敢てこの事に及ばしむるに至りしは、輕々に看過す可からざる社會的現象にして、而も、機關の不備に乘じて起りしものなりとせば、その罪はかれ等にあらずして、寧ろ當市の商業會議所にある』とも記されてゐる、かくて物質上の損失よりも、精神的の墮落を以て恐る可しとなし、これが救濟を講し、幾何もなくして、期待の結果を生ずるに至つた。

五

そもそも、クリーブランド市は、十八世紀の末葉モーゼス、クリーブランド氏によりて創設せられ、初めの約十年間は同氏自ら經營に當り、十九世紀の初年には村の資格を受け、次て町に昇り、軈て市として認められた、今日までの約百年間には、その行政機關も幾多の變化を經てゐる。乃ち、千八百三十八年市制を實施するや、三人の市政員を選擧して、その決議によりて行政し、別に諮問會の設けもあつたが、千八百五十二年にはこの三頭政治を廢し、オハヨ州の法律によりて政治を受け、州は數名の吏員を派してその局に當らしめた、千八百九十一年には再び自治機關を組織して合議式となし、市長を選擧し、參事會を設け、その事務も亦分課制として事務の簡捷を期した、然るに千九百三年には亦々改革行はれ、オハヨ州の市町村制に準據することゝなり更に千九百十二年の市政改革に際しては、寧ろ千八百九十一年の合議式を以て適當せるものと認むるに至つた、この改革成功に關しては會議所の力、最も大なりと稱せられてゐる。

かく、改革せられたるクリーブランド市は、その市制を米國政府の組織に模し各區より選擧したる議員を以て市會を作り、これを立法部となし、各區聯合して市長を選擧し市長の下に六人の課長がある、乃ち法務課、庶務課、保安課、公益課、商工課、財務課に分れてゐる。

又、市の工業の發展に就ても、會議所内に於ける工業振興委員會の指導に負ふ所頗る大なるものがある、蓋し、同委員會の主力を傾けたるは、專ら既存工業の完成であつて未だ新興工業には及はなかつたのであるが、最近の委員會報告書に依れは『當市工業の現狀に在りては、如何なる小規模の工場と雖も、夙にその最高能率を發揮しつゝあり』とあつて、委員會は更に力を轉じて家内工業の改善を圖り、傍ら新企業を奬勵し、これに關しては、商品の需要供給、製品と原料、運送方法等を詳細に調査し、寔に商工業家をして啓發せしむる所尠くなかつたのである。

商業會議所は、かくの如く市内商工業の爲めに有益なる調査を遂げて、その中に在りて特に援助す可きものは、自ら挺むてゝその事に當つてゐる、乍併、新たに工業を企畫し、工場を設くるの故を以て、これが爲めにその負擔を免し、又は減することは、決してこれを肯せぬ、これに反して別に報酬を受入れもせぬ、若し、特に物質的の後援なくしては、同市に存續し得ざる程度の工業ならは、敢てこれを歡迎せぬのであ

る、乃ち、これより先きボストン商業會議所が、信用を與へて企業經濟を助勢したるとは、全く相反してゐるのである、要するに、本人の手腕と現實の資本とに依るにあらざれは、實力ある事業の發達は期し難しとしてゐるのである、而も、その半面に於ては、これ等の缺陷を補はむが爲めに、資本家を誘つて企業投資會社を起さしめ、新企業にして、資本なきものに融通の途を拓き、又は將來を保證して、安むして經營難に堪えしめてゐる、この投資會社の理事は、新企業に對しては、充分の權能を保有して、詐略欺計に陷るやうのことなからしめてゐる。

六

實に、クリーブラントを初めとして、米國の各商業會議所が市民の代表機關となりて、努力する所寔に多く、都市の計畫、家屋及衛生施設の改善、保安警防に關する施設、慈善團の取締、交通の整理等、皆その手に成つてゐる、かのリチー氏の曰ける如く『商業會議所は都市の大多數の住者に依りて保持せられ、その富の問題を解決するのみなちず、苟も、都市の智識を集積した場所である』となすを以て、最も妥合せる定義となし得るのである、若し夫れ、都市住宅の配分を公平にし、勞働條件を適當のものたらしめ、或は風紀及衛生上の設備を完全にして、住み心地よき都市たらしめなば如何、假令、その事業が利己心の發動せるものなるにもせよ、そは直ちに取て以て都市に忠實なる結果となる可し、商工業者として公に奉するの道、復、他にあらざるやの觀がある、乃ちかのダルートの商人倶樂部が、早くもこの點に意を留め、率先してこの方面の活動を開始したるも、故あるかなである。

蓋し、都市計畫中、先つ注意す可きは、如何にせば住心地よき健康地たるを得可きか、逐次增加する人口を如何にせは收容し得可きかにある、次ては、交通の利便、市區の整理、停車場、市場、公園、工場、倉庫等の地域選定にある、ジー、ビー、フォード氏なる人は、都市計畫を、身、工業家たるの立場より見て、都市の美觀、經濟上の要件等を論じ、工業發達の結果として、都市が幾千百萬の人口を收容し得たりとするも、都市としての秩序、衛生、住居、娛樂の機關を完備せざれは、これ決して都市の健全なる發達にあらずして、寧ろ、都市の墮落であると云ふ結論を揭けてゐる、氏はこの結論を提け起ちて、各商業會議所に警告する所があつたが、この事たる漸く心ある人々を動かして、マサチユセット州にては法律を以て市町村計畫規則を布き、ボストン會議所は各都市計畫の新記錄を調査して、每週報告書を發刊し、以て他日の計に備へ、サレム市、ニューヘブン市の兩會議所も亦これに倣つた、この種の報告書中に在りて、最も完備せるはエリー會議所の發行に係るもので、その內容としては、街路、軌道、水道、建築物、廣場、公園その他都市計畫に必要なる、大小の事項に就て、頗る詳細に亘り、極めて有益なるものである。

千九百十三年八月、紐育市はマンハツタンのマカネニー區長の言を容れて、都市計畫博覽會の開催に協贊したるが、同市商業組合は直ちに、その費用全部を負擔す可きことを可決し、紐育公立圖書館內陳列室を以て、その會場に充當することゝし、都市局は又その材料蒐集の任を帶ぶることゝした、而してこの企畫の公にせらるゝや、人口一萬以上を有する米國の市街地は、悉くこの擧に贊同せしのみならず、海を超えたる幾多の外國都市も奮つて同意を表した

陳列品は數限りなく集まり、豫定の會場のみには如何ともなすに由なくして、多數の謝絶をなした程である。當時、發行したる案内書に曰く『本會は一般公衆に向つて都市計畫なるものゝ概念を與へ、苟も、同一都市に居住するものは、その職業、財産、區域等の相異れるを問はず、その間には必ず何等かの聯絡あることを示し、納税者に對しては、税金が如何に有効に使用せられ、納税は取りも直さず、最大利益を收むる投資であることを周知せしむるを以て目的となす』と、猶、詳細の記事はその報告書たる、都市計畫及これに關する事業なる書に載せられてある、今や、この一舉に刺戟せられてか、或は他に機運の熟するものありてか、都市計畫なる問題は近代生活研究の重要題目たるに至つた。

アダム・スミスの價値論に就いて（三）

加田忠臣

一、スミス價値論の要領（既出）
二、スミス價値論の本質（前號所載）
三、勞働價値說に於ける勞働の意義（本號所載）

（十三）

スミスの價値學說の本質が勞働價値說なるは、以上詳述せるが如し。扨て次に問題たるは其勞働價値說に於ける勞働の意義如何と言ふ事是なり。

スミスは價値を決定する勞働の分量を二つの方面より觀察せり。其一は交換の方面にして、其二は生産の方面なり。スミス曰く「財の價値は、之を自ら消費せずして他の財と交換せんと欲せる所有者に對しては、其財により購買し又は支配し得る勞働の分量に均し。……すべてのものの眞の價格即ち其物を獲得せんとする人に對する眞の費用は之を獲得する勞務と手數なり」と。[1] 即ち交換の方面より價値を見るときは其大さは其財の支配し又は購買し得る勞働の分量によりて決定せられ、生産の方面より見るときは、價値の大さは其の財の生産に投ぜられたる勞働の分量によりて決定せらるとせるなり。價値の決定は財の支配し得る勞働なりとするものを、Labor-command Standard と言ひ、生産に費されたる勞働が其財の價値を決定すとする說を Labor-cost Standard と稱するを得べし。[2]

而して、スミスが財の生産に費されたる勞働と財の支配し得る勞働の分量とを以て相等しきものと解せるは次の章句に依りて明かなり。

"What is bought with money or with goods is purchased by labor, as much as what we acquire by the toil of our own body. That money or those goods indeed save us this toil. They contain the value of a certain quantity of labor which we exchange for what is supposed at the time to contain the value of an equal quantity."[3]

斯くの如く財の生産に費されたる勞働と其財の支配し得る勞働とが相等しきを承認するにあらざれば、スミスの價値論は其前提に於て矛盾するものとなるに至るべし。されどマルサスが其著 The Measure of Value Stated and Illustrated, 1823 に於てスミスの價値論を評して、

"In laying down labor as a measure of value, it is allowed that he (Adam Smith) does not make it quite clear, whether he means the labour which is worked up in a commodity,